

発行日 2013 年 4 月 20 日 発行人 細川正善編集責任者 廣澤道秀 編集担当 佐藤慧真

発行所 SOTO 禅インターナショナル事務局 〒 233-0012 神奈川県横浜市港南区上永谷 5-1-3 貞昌院内

Tel. 045-843-8852 Fax. 045-843-8864 URL: http://www.soto-zen.net/

郵便振替 00100-6-611195 SOTO 禅インターナショナル

Vol.52

2013年度総会特集号

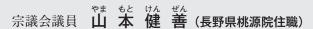


2月28日熱海にて2013年度総会・懇親会が開催された

巻 頭

海外布教への放言

国際布教の基本は那辺に求められるべきであろうか





国際交流が頻繁となり、曹洞宗宗 侶が海外の禅センターといわれる所へ 行き、その真面目で真摯な弁道に感 激し、帰国してその経験を生かすな ど、逆輸入かもしれないが、曹洞禅の 世界的飛躍といった文言も多く見られ

る今日となった。しかし、日本語を母国語としない外国人が、日本国内において修行弁道に励むといったことは、それに比べて 些か少ない。

また一方では、一部の外国人を対象とする特別な安居に参じ、 日本の禅の"エッセンス"を体得し、認可を受けるというシステム の構築が努力されてもいるが…。

これら二つの状況を比べても、私たちがいう曹洞宗の海外における広がりは、近年飛躍を遂げているとする見方は、グローバルな見地からすれば、一体どうなのか、一度謙虚に検証する必要があるのではないか。

キリスト教を背景とする思想や合理主義などに飽き、これらから抜け出したい人にとって、Zenはその新世界への入り口となっているわけである。組織としてのシステムや形式にこだわらず、独自独善であっても、そこにあるZenには、自らの体験を基に、自分たちが納得するやり方を選択してきた若者たちの姿がある。これに呼応する形でSoto Zenが伸長したとは言えようが、

果たして曹洞宗としてはどうなのか。これからが本番である。

「戦略的互恵関係」といった造語が意味するところは分からないが、多様に発展してきている禅の実践グループと価値観を共有できるのは、禅の実践そのものであり、制度や軌範の共有ではないはずである。彼らと我ら曹洞宗との関係は、疎外は勿論だが、過度に密接な関係も必要とはしない。なぜなら、互いに、己自究明が絶対的必要条件である禅の実践は、互恵関係そのものであるからである。

応病与薬というが、これは多分に受動的である。現在、我々は外に向かって乗り込んでいかなければならない。あちらからは入ってこない。海外での国際布教の実践によってこそ、現代宗門の本質的変革がなされなければならないのではないか。それが適わなければ、私たちが曹洞禅を失ったことを意味する。大放言とは思うが。

何れにしても、少なからずこの思いは、欧米の曹洞禅を担ってこられた鈴木老師、片桐老師、前角老師、知野老師、弟子丸老師、さらには、松岡老師、森山老師、秋山老師、また、慈友ケネット老師、リチャードベーカー老師など、諸老師がたも抱かれたことであろう。これ以上のお名前の列挙は却って失礼となるので控えることとするが、彼此から諸老師を支えてこられた多くの関係者の行履とともに、いよいよ参究されねばならない。

ご精読を感謝いたします。

特集 2013年度総会報告

SOTO 禅インターナショナル 2013 年度総会報告



天平山禅堂プロジェクトについて現状報告する秋葉玄吾老師

2月28日、熱海ニューさがみやにおいてSZI総会が開催された。20名の出席者の中から、福島伸悦師が議長に選出され総会が進行した。

議長より、本年度の役員改選提案に対し細川会長は「前回の役員会にて、前会長はじめ各役員の助言のもと、本年はSZI20周年でもあり、更には今後の活動について継続事業と総括を含めた重要な節目の年となるので留任するよう望まれ、継続する意向を伝えた。」との発言がなされ、承認された。また、2013年の事業計画には、8月に開催される南米ペルー慈恩寺100周年を加えることも承認された。

その後、館寺規弘師・秋葉玄吾師より現状報告があった。 館寺師は2012年4月8日付でサンフランシスコ桑港寺より帰国し、東日本大震災で被災した宮城県南三陸町の 津龍院に戻り師寮寺と地域の復興に尽力してきた。また、 秋葉玄吾師より天平山禅堂プロジェクトについて報告が された。2013年2月6日に建築許可申請を提出し、5月末 に許可が下りた段階で本格的な工事が始まる予定になっ ているとの報告があった。

また、次に、細川会長より"SOTO 禅インターナショナルの今後のあり方"についての提案があった。「SZIは20年前に開教師支援の目的で始まったが、一定の成果が見られる。また、以前は海外曹洞宗の情報を日本で入手することは難しかったが、インターネット等が発達した現在では、海外の情報を手にすることが容易になっている。組織や会の存続が目的になるような展開は避け、20周年で一度区切りを付け、SZIの原点である海外布教のOB並



細川会長により組織の発展的解散が提案された

びに関係者の会に戻るのはどうか。」という内容であった。

SZIの発展的解散という提案の後、議長指名により参加者一人ひとりにSZIの今後に対する意見が求められた。発展的解散に賛同する意見も多い中「両大本山ワークショップなど、若い僧侶に影響を与えている事業も有る。事業を抜本的に取捨選択して存続させるのはいかがか。」という意見もあり、総会終了予定時刻を過ぎても結論は出なかった。

そのため細川会長より「現状を踏まえ、存続なども含めて見直しの方向性について検討する委員会を立ち上げること」が提起され、承認された。これを受けて、議長より「SZIを解散させることは皆様の総意ではなさそうだが、組織やネットワークを保ちつつ、抜本的な見直しを含めた提案をする。そのための委員会を事務局にて立ち上げ、6月の臨時総会までに事務局案を出すことにする。」ということを結論とし、出席者の承認を得た。 (SZI事務局記)



熱気に溢れた懇親会。二次会のカラオケルームでも 誰も歌わず、国際布教や宗門について、SZIの果たすべき 役割、方向性、近況等々が語られていた

SOTO禅インターナショナル2012年度収支決算報告書

総収入金 ¥4,920,968 総支出金 ¥4,189,139 差引残高 ¥731,829

収入の部

2012年1月1日~2012年12月31日

- IV > CO > HIP				
項目	本年度予算(a)	本年度決算(b)	増 減(b-a)	備 考
会費収入	2,300,000	1,791,000	-509,000	年会費
事業収入	250,000	255,000	5,000	総会会費など
助成金	1,200,000	700,000	-500,000	宗務庁20万円、永平寺50万円
雑収入	500,000	735,863	235,863	利子、添菜、賛助金
塔婆植林事業収入	700,000	865,890	165,890	
繰越金	573,215	573,215	0	前年度よりの繰越金
計	5,523,215	4,920,968	-602,247	

支出の部

24111				
項目	本年度予算(a)	本年度決算(b)	増 減(b-a)	備 考
国際布教支援事業費	500,000	0	-500,000	国際布教支援積立金へ
事業費	2,000,000	1,563,495	-436,505	総会、両大本山WS、伝道史編纂事業等
印刷費	100,000	145,214	45,214	各種印刷費
会報費	1,000,000	939,291	-60,709	会報印刷、発送費、会報担当費
会議費	500,000	471,818	-28,182	各会議費、会議交通費支弁
事務費	200,000	273,868	73,868	事務連絡費、消耗品費、振込手数料等
通信費	100,000	6,120	-93,880	会報以外の郵送費等
備品費	30,000	0	-30,000	
渉外費	50,000	32,000	-18,000	海外寺院献香料、慶弔電報、供花等
塔婆植林事業費	700,000	757,333	57,333	GNCへ2011年度分15万円、2012年度分50万円を寄託
予備費	343,215	0	-343,215	
計	5,523,215	4,189,139	-1,334,076	

国際布教支援積立金 定期預金 (前年度まで)

本年度国際布教支援事業費

本年度取り崩し(国際布教支援金)

本年度累計額 (次年度へ繰越)

7,065,363 (a)

0 (b) 年度会計からの入金

0 (c)

7,065,363 (a+b-c) 定期貯金

上記の通り報告書を提出致します。

平成25年2月28日

SOTO禅インターナショナル 会計 太 田 賢 孝 (印)

監査の結果、上記の通り相違ありません。

平成24年2月16日

SOTO禅インターナショナル 監事 黒 柳 博 仁 (印)

SOTO禅インターナショナル 監事 葉 貫 成 悟 印

SOTO禅インターナショナル2013年度収支予算

総収入金 ¥5,481,829 総支出金 ¥5,481,829 差引残高 ¥0

収入の部

2013年1月1日~2013年12月31日

NY Y Y Y HIP				
項目	前年度予算(a)	本年度予算(b)	増 減(b-a)	備 考
会費収入	2,300,000	2,300,000	0	年会費
事業収入	250,000	500,000	250,000	総会会費(30万)など
助成金	1,200,000	800,000	-400,000	宗務庁・両大本山(永平寺30万入金済)
雑収入	500,000	700,000	200,000	利子、添菜、賛助金
塔婆植林事業収入	700,000	450,000	-250,000	15000枚×30円
繰越金	573,215	731,829	158,614	前年度よりの繰越金
計	5,523,215	5,481,829	-41,386	

支出の部

項目	前年度予算(a)	本年度予算(b)	増 減(b-a)	備 考
国際布教支援事業費	500,000	0	-500,000	国際布教支援積立金へ
事業費	2,000,000	3,100,000	1,100,000	総会30万、WS20万、伝道史200万、20周年50万、ハワイ10万
印刷費	100,000	100,000		各種印刷費
会報費	1,000,000	1,000,000	0	会報印刷、発送費、会報担当費
会議費	500,000	500,000	0	各会議費、会議交通費支弁
事務費	200,000	300,000	100,000	事務連絡費、消耗品費、振込手数料等
通信費	100,000	10,000	-90,000	会報以外の郵送費等
備品費	30,000	10,000	-20,000	
涉外費	50,000	30,000	-20,000	慶弔電報、供花等
塔婆植林事業費	700,000	330,000	-370,000	GNC寄託分(15000枚×20円)
予備費	343,215	101,829	-241,386	
計	5,523,215	5,481,829	-41,386	

国際布教支援積立金 定期預金(前年度まで)

本年度国際布教支援事業費

本年度取り崩し(国際布教支援金)

本年度累計額(次年度へ繰越)

7,065,363 (a)

0 (b) 年度会計からの入金

0 (c)

7,065,363 (a+b-c) 定期貯金

上記の通り予算書を提出致します。

平成25年2月28日

SOTO禅インターナショナル 会長 細 川 正 善(印)

SOTO禅インターナショナル 会計 太 田 賢 孝 印

2013年度SZI事業計画 (案)

活動テーマ< 温故知新 ―設立20周年を迎えて―>(2013年1月1日~12月31日)

★ 自己研鑚事業

宗教間対話研究所月例会参加・各種講演会・勉強会参加・役員各自ブログ開設・運営

★ 講演・総会事業

☆ 総会主催

ニューはがみや 熱海 年度総会 ・2月28日(木)

☆シンポジウム主催

·6月18日(火)

檀信徒会館 桜の間

SZI創立20周年記念祝賀会 兼 [曹洞宗海外日系寺院史] 出版記念祝賀会

☆ 両大本山ワークショップ主催

大本山総持寺ワークショップ

大本旧永平寺ワークショップ

日6・

★ 布教・協力支援事業

☆ 各種行事人材派遣/交流

南アメリカ布数110周年 8月24・25日 曹洞宗南アメリカ国際布教総監部主催

・11月9・10日(土・日) 曹洞宗ハワイ布教110周年・ハワイ別院正法寺100周年

曹洞宗ハワイ国際布教総監部主催

☆ 塔婆供養で植林支援プロジェクト

・GNCモンゴルヤ協働により継続

★ 出版事業

SZI会報52号(4月)、53号(8月)、54号(12月)

海外寺院ガイドブック更新

「曹洞宗海外日系寺院史」編纂継続

★ 広報事業

S Z I ホームページの運営・海外寺院ガイドブック Web 版の運営 ブログやEメールなどによる各事業の広報活動・情報提供

★ 国際布教支援金の運用

・希望者の募集、対象者の選定、

★ 災害被災地慰問・復興支援活動

寺院慰問、そのほか役員各自により活動

2012年度SZI事業報告

活動テーマ<温故知新 -顔の見える支援交流活動->(2012年1月1日~12月31日)

★ 自己研鑚事業

宗教間対話研究所月例会参加・各種講演会・勉強会参加・役員各自ブログ開設・運営

★ 講演事業

☆ 総会/講演会主催

[スティーブジョブズと北アメリカの禅] 曹洞宗檀信徒会館 講演会講師秋葉玄吾老師、尖秀雄老師 ·2月16日(木)

☆ 両大本田ワークショップ主催

大本山總持寺ワークショップ ・6月 1日(金) 大本山永平寺ワークショップ ·6月 7日(木)

★ 布教・協力支援事業

☆ 各種行事人材派遣/交流

・3月9~11日(金~日) 第8回ハワイ・北アメリカ日系寺院檀信徒大会参加

曹洞宗ハワイ国際布教総監部主催・アラモアナホテル

北アメリカ開教90周年 ·9月7日(金)

☆ 塔婆供養で植林支援プロジェクト

・GNCモンゴルと協働により継続

★ 出版事業

51号(12月) 521会報49号(4月)、50号(8月)、

海外寺院ガイドブック更新

"曹洞宗海外日系寺院史』 編纂継続

★ 広報事業

SZIホームページの運営・海外寺院ガイドブックWeb版の運営 ブログやEメールなどによる各事業の広報活動・情報提供

★ 国際布教支援金の運用

・希望者の募集、対象者の選定、その他

★ 災害被災地慰問・復興支援活動

寺院慰問、そのほか役員各自により活動

… 海外レポート① …

ヨーロッパの現状と総監部の役割

ヨーロッパ国際布教総監部

私たちヨーロッパ国際布教総監部は、欧州管内における宗務の処理と布教教化の推進を図るべく、フランスのパリにその事務所を構えて日々業務に当たっております。現在、総監を務めているのはイタリア人のフォルザーニ慈相、そして宗務庁から出向している松田英寿と釜田尚紀の両名が庶務担当として総監部を運営しております。

ヨーロッパ管内での参禅者数は、我々が把握しているだけで5000人以上おり、また修行できる道場の数は300か所以上になります。同時に各地に拠点を構えて広く坐禅の指導や教化に当たるべく曹洞宗から任命された国際布教師の数は現在31名で、その弟子として曹洞宗に登録されている宗侶の数は350名を数えます。そして、これらの数は年々増加の傾向にあると言えます。

ヨーロッパにおける曹洞禅は、日系移民の為の教化や 法務の需要に応えるべく開教された他の総監部と異な り、「坐禅」がその始まりでした。

弟子丸泰仙師によってヨーロッパに禅の教えが伝えられた1960年代の後半は、ヒッピー文化やニューエイジ思想が興り、またヨガなどの東洋の文化や精神性に若者が惹きつけられていた時代でした。これまでの既存の文化や枠組みに対する疑念や革新が叫ばれていた潮流のなかに、「禅」を手に弟子丸師が渡欧したことは、まるでその時代のヨーロッパにおいてはパズルが嵌るような様子だったように推測されます。その後、師による教化が広く欧州全体になされたことが土壌となり、各地に道場が創立され、現在では上記の数を数える発展を見せております。

そのような坐禅を修行できる道場には、住み込んで修 行ができるお寺の形態と、朝晩に集まって坐禅ができる 道場という二つの形態があります。お寺の場合は、早暁



街の道場(フランス・ストラスブール禅道場)

に振鈴が鳴らされ、暁天坐禅、朝課、応量器での行粥、 作務といった行持内容で、開枕まで日本の僧堂とほぼ変 わらない内容になっています。一方で道場と呼ばれる場 所のほとんどは街中にあり、建物の一室を坐禅堂にして いる場合が多く、朝6時ごろに参禅者が各々の家から集 い、坐禅をし、朝課を行じて、道場から各自の仕事に向 かいます。夜もまた道場に来て夜坐を坐り、自宅へ戻る という形態が多く見受けられます。どちらの場合もその 運営費は、そのお寺もしくは道場の法人の年会費、また は坐禅や摂心への参加料などで賄われています。

総監部の主な活動といたしましては、これら道場を運営している宗侶の補佐はもちろんの事、先述のような僧籍の登録や立身、伝法などの申請書類処理のほか、管内の指導者を集めて制度的なことを話し合う協議会や、管内全体の法式及び教学的な成長を図る研修会を企画、運営しております。それ以外にも近年では管内の特別寺院での結制安居修行の補佐や、海外研鑽僧制度で日本の僧堂から欧州に来る僧侶の為の日程手配なども行っております。一言で言えば、管内の指導者同士、各サンガのメンバー同士、そして日本とヨーロッパといった様々な関係の橋渡し役といえるかもしれません。

いま、ヨーロッパの宗侶は一人一人が曹洞宗の一員で、自分たちが修行するヨーロッパの現状や将来に向き合い、手を取り合いながら、伝灯を繋いでいかなければならないという意識が強く生まれております。これらの環境は自動的に築かれたわけではなく、これまで国際布教に携わってこられた方々のご尽力あってこその成果であります。今も、そして将来的にもヨーロッパの地に曹洞宗がより広く、そして深く浸透していくよう、総監部は尽力して参ります。



総監部主催研修会の様子

… 海外レポート② …

エンゲージドブディズムからアプライドブディズムへ

~プラムヴィレッジ滞在報告~

さ とう え しん SZI事務局 **佐 藤 慧 真 (新潟県興源寺徒弟)**

昨年11月27日(火)より12月14日(金)までの約3週間、フランスにあるプラムヴィレッジに滞在し、ティックナットハン師の教えをいただく機会を得ました。ティックナットハン師というと、日本では「エンゲージドブディズム」(行動する仏教)の提唱者としてよく知られています。しかし今回、師の目指すところとして新たに耳にしたのは、「アプライドブディズム」(応用する仏教)という言葉でした。SOTO禅インターナショナルの設立時に師にご講演をいただいてより、約20年という歳月が過ぎています。その後のサンガの成長につれ、たどり着いた在り方「アプライドブディズム」について見ていきます。

【ティックナットハン師について】

1926年ベトナムに生まれる。10代で出家、僧侶となる。ベトナム戦争のさなか、平和と停戦を訴え、戦争被害者救済に尽力するが、1966年フランスに亡命を余儀なくされる。1973年パリ平和会議に宗教者代表として出席。現在は、フランスのボルドー地方にある僧院「プラムヴィレッジ」でサンガと共にリトリートを行い、海外ツアーにも精力的に回って布教活動を行っている。多数の著作が全世界で翻訳されており、欧米ではダライ・ラマ同様によく知られている。詩人・書家。愛称は、「タイ」。

.....

期待されていた2年前の来日(大本山總持寺でリトリートが行われる予定だった)は、東日本大震災発生の混乱の中、中止となっている。

● プラムヴィレッジとは?

プラムヴィレッジは、パリのモンパルナス駅から特急 電車とローカル線を乗り継いで4時間と、さらに車で30 分ほどのボルドー地方の豊かな自然に囲まれた丘陵地帯 にあります。かつてパリ近郊から拠点を移して、はじめ 男女共に一ヵ所にまとまって暮らしていましたが、僧侶 が増えるにつれ手狭となり、今ではアッパーハムレット (ブラザーと呼ばれる男僧用の施設)、ロワーハムレット (シスターと呼ばれる尼僧用の施設)とニューハムレット (同シスター用)の3ヵ所に分かれて暮らすようになりまし た。それぞれは車で約30分ほどの場所に位置しており近 いとはいえない距離なのですが、しょっちゅう行き来して 大変仲良く修行生活を送っています。「ブラザーウッド・ シスターウッド」を大切にしている彼らはお互いのことを、 「国にいる本当の家族より本物の家族のように感じる」な どと言ったりしていました。

僧侶の数は滞在時点でブラザーが80人、シスターが107人でしたが、香港・タイ・アメリカ・ドイツなど世界中にあるセンターも含めると、約800名のタイのお弟子さんがいることになります。彼らは人事異動のように、必要に応じて入れ替わったりすることもあるようです。

タイが毎年様々な国でリトリートを行い精力的に布教を行うにつれ、僧侶も信者も増え続けています。そういうわけで、プラムヴィレッジにはいろいろな国の人々が混在しているのですが、日常言語は英語・フランス語・ベトナム語の3ヵ国語が使用されています。勤行やタイの法話もその日によって言語が変わり、都度通訳が入ります。なお、基本の3言語については僧侶向けの会話教室も開講されていて、熱心に学習が行われていました。

プラムヴィレッジでのリトリートは年間を通して行われており、これに参加するために世界中から信者やファン、宗教者などが入れ代わり立ち代わりひっきりなしに集まって来ています。特に夏のリトリートには週に1,000人を超える人々が集まり、僧侶の数も増えて施設は満杯になります。1週から3週間ぐらいの滞在者が多く、またそれ以上長く滞在する人もいます。本人にやる気があるのに金銭的な理由で修行が行えないのを良しとせず、それなりの労働を負担させた上で滞在を許可したりしているようです。

出家を希望する者はそのようにして1年ぐらいプラムヴィレッジに滞在する必要があり、認められれば十戒を受けノービスとなります。女性の場合を例にとると、その後3年生となり十六戒を受けると式叉摩那、4~6年



元農園だったニューハムレット。のどかです



ニューハムレットの朝課の様子

生は三四八戒を受け比丘尼となり、それ以上はダルマティーチャー (指導者)となります。プラムヴィレッジでは戒律の基盤の上に全ての行動があり、純粋に戒律が重要視されており、禅宗(臨済禅)であるとはいえ上座部のカラーが色濃く出ていました。

◆ ある日のリトリートスケジュール

5時 起床

5時30分 ガイド付き瞑想とチャンティング

7時 エクササイズ

7時45分 朝食

8時30分 身の回りの清掃

9時15分 集合とワーキングメディテーション

新参者のためのオリエンテーション(在家)

11時30分 ウォーキングメディテーション

12時30分 昼食

15時 ベトナム語クラス(出家)

ダルマシェアリング(在家)

16時15分 ダルマティーチャーミーティング(出家)

17時30分 夕食

20時 トータルリラクゼーションとタッチングザアース

21時 ノーブルサイレンス・明日の朝食後まで会話禁止

22時30分 消灯

●「マインドフルネス」の実践

プラムヴィレッジのリトリートとはすなわち、「マインドフルネス」の実践ということになります。宗教というよりこの「マインドフルネス」を前面に出しているせいか、分かりやすく、在家の参加者はより気楽にリトリートに参加しているようです。そのマインドフルネスとは、「今」というこの瞬間に目覚めている力のこと。坐禅の時だけではなく、働いている時、休んでいる時、食事をしている時、日常のあらゆる場面、すなわち行住坐臥において、思考を止め自分の呼吸に立ち返り、ゆったりとこ

ころと身体を一つに調和させていくのです。その結果、自然とそうなるのでしょう、プラムヴィレッジでは走っている人がいません。大声を出している人もいません。皆の所作がゆっくり、ゆったりとしており、表情は穏やかな微笑みに輝いています。これが「マインドフルマナー」。個人からにじみ出てくる修行の成果です。

ところでロワーハムレットの院長・シスタージーナは、かつて寶鏡寺で曹洞宗の尼僧として3年間修行をしたことがおありですが、「曹洞宗はこことは正反対にいつも早く歩かなければならなかったけれど、でもその時には衣の裾やスリッパの音をさせないようにして静かに動いていた。ここではゆっくり動かなければならないけれど、ああ、結局どちらも同じなんだなと思った」とおっしゃっていました。

今回のリトリートでタイが何度もおっしゃっていたのは、「歩きながら話すのをやめる。話すときは立ち止まってから話す。」ということでした。法話では「考えず、話さず、集中して歩く。雑念を除く。すると幸せになり、今ここにあるポジティブに触れることが出来る。坐禅の時も考えるのをやめること。」とおっしゃっていました。このように、マインドフルに行動するためには、タイの言い方で言うと「NST局」(ノンストップシンキング=際限なく考えっぱなし)というラジオのチャンネルをオフにしなければなりません。スイッチをオフに切り替え、マインドフルに立ち返るために、ユニークな修行の工夫が様々成されていました。

まず、いつどこにいても鐘の音や時計の音が聞こえたら、とにかく山内一斉にストップモーションに入る「マインドフルネス・ベル」があります。全員が時間が止まったように動きを止め思考を止め、自分の呼吸に立ち返ります。鐘の音がやむと、今度は何事もなかったかのように話に戻ったり、食べ始めたりします。一日に何度も鐘の音が聞えるので、その都度、ハッと我に立ち返ることが出来ます。

それから禅宗に大事な 食事に関わることもありま す。それは並んで食べ物を 取りに行くところから始ま ります。タイはおっしゃっ ています。「太陽がなけれ ば私たちも食べ物も存在 しない。食べる時私たちは 太陽を食べている。にんじ んを食べる時太陽とつなが る。食べ物にはダルマのエ



ニューハムレットの中庭

ネルギーが入っている。地球からの恵みを知れば幸せに なれる。感謝が足りないと幸福感が生まれない。」

プラムヴィレッジにも曹洞宗と同じように『五観の偈』があり、食事のマナーもあります。しかし『対大己五夏 闍梨法』のようなものはなく、自分のペースでゆっくりいただくことが出来、食べ終わる順番にはこだわりはないようでした。それよりも大事なのは、一口30回以上噛むということです。タイは「何回噛んでいるか数えなさい。呼吸を数えてもいい。食事中思考を噛むのは健康的でない。」とおっしゃいます。

いろいろな国からやって来たシスターたちが作った、 国際色豊かな精進料理は抜群に美味しく、本当にみんな が笑顔でした。

● 世間と出世間のあいだで

私がお世話になったのは、ニューハムレット。ここには以前会報にもご寄稿いただいた、シスターチャイがいらっしゃいます。プラムヴィレッジ唯一の日本人です。今回は通訳から何から大変お世話になりました。

実は私、降りる駅を間違えてしまい、人生初のヒッチ ハイクで予定より遅くニューハムレットにたどり着いた のです。初日から波乱万丈の旅。しかし到着するやシ スターたちに囲まれ、その心のこもった歓迎ぶりに心底 ホッとしたのでした。

ゲストルームは4人部屋で、同室はサティユクマールという哲学者の奥様でイギリスで在家グループを組織しているJ、インドほかいろいろな聖地を巡っているというM、日本の禅のことも知っているH、とスピリチュアルで個性的な人ばかりでした。着いた日にはもうみんなで情報交換し、チベッタンヨガの練習をして盛り上がりました。

毎日のスケジュールは、基本的に私は出家者と行動を 共にさせていただいていました。私の法齢により式叉摩 那として、戒律の授業にも参加させていただきました。



式叉摩那の皆さんと先生。私も入れていただきました

私にとって、とても新鮮で楽しい授業でした。というのも、ものすごく沢山ある尼僧の戒律が、制約するためのものというより出家者を守るためのものであるということに合点がいったからです。プラムヴィレッジの僧侶は、サンガの中で戒律を守って暮らすことによって、煩悩というとげから守られている。だから心地よく暮らせているということです。

2週間も過ぎたある日、私は皆さんの前で、こんな話をしました。

「私は最初、自分の娘(高校生)と同じぐらいの年齢の 女の子がプラムヴィレッジに大勢いるのに驚きました。 こんなに若いのに、この子たちはみんな結婚もしないし 子どもも産まないと決めているんだ。なんてかわいそう なんだろう、と思ってしまいました。」

すると、その部屋の中にいたブラザー&シスターが、「アハハハハ」と一斉に笑い出したのです。え?ここで笑いを取るか?と私は面くらいました。

つまり彼らは、出家したことにより、もう結婚もしなくてもよくなったし子どもも産まなくてもよくなったわけで、全てを手放し、煩悩を離れて、自由な涅槃の世界で楽しく生きているというわけです。プラムヴィレッジとは、「女の幸せとは恋をする事、結婚する事、子どもを産む事」などという、そういう世間の価値観を超えたところなのです(そして私はそういう世間の価値観に汚染されていることに気付かされた)。

ちなみに、私の話には続きがあり、「でも、しばらくここにいて皆さんの事を見ていたら、今実際かわいそうなのは、ストレスに囲まれ疲れて不機嫌な様子で帰ってくるうちの娘たちの方なんじゃないかなあと思うようになりました。」と言ったのでした。

後日談として、この私の発言はタイに伝わり、「日本のシスターもそこまで分かるようになったか。よしそれでよい。」とおっしゃったのだそうです。

「エンゲージドブディズム」から「アプライドブディズム」へ

プラムヴィレッジは、男も女も年齢も国籍も超えたブラザーウッド・シスターウッドによって、みんなが仲良く笑顔にあふれており、全てがゆったりとしていました。人と人との垣根が低く、私もあらゆる場面でいろいろな親切を受けました。在家の方々はこのサンガの在り方に感動し、清らかなブラザー&シスターのファンになり、(時には涙まじりに)必ずまた戻ってくると言って帰って行きます。そして事実、入れ替わって到着した人たちの中には「何度目です。」というリピーターがとても多かった



ウォーキングメディテーションの前に歌を歌う

のです。

このように人々が感動するほど穏やかに沢山の集団が暮らしていくために行われていたのが、個人の体験や問題や疑問、気持ちを分かち合うための「ダルマシェアリング」や、こころのリニューアルのための話し合い「ビギニングアニュー」です。トラブルは、すべて思いやりを持った話し合いの場で調整されてゆくのです。

さて、週のうち一日だけ、在家者が参加することの出来ない、出家者だけでタイの庵を訪れる日がありました。そこでタイの法句経の講義を受け、冬の庭の中で落ち葉を踏みながらウォーキングメディテーション(ゆっくり歩きながらの瞑想)をしました。休み時間にはお菓子をいただき、お昼ご飯は式叉摩那の仲間や日本に在住していた経験があるというベトナム人のブラザーといただきました。「ジャパニーズ!ここに来たら?」と誘われ、暖炉の前で薪がはぜる中、重なるように横になって居眠りもしました。

ある日、庭の焚火の前に座ったタイの周りにブラザー &シスターが集まっていたので近づいてみました。ここ に座れば、とブラザーが椅子にスペースを作ってくれま した。何人かがアコースティックギターに合わせ、ベト ナムの歌を歌っていました。せんべいみたいなものを薪 で焼いたのが回って来たので割っていただきました。み んなとても楽しそうで、ゆったりと腰かけたタイは非常 にリラックスして満足しているように見えました。サンガ



落ち葉を踏みしめる音を聴きながら、一足ずつゆっくり歩く

は、タイの宝物なんだなあとその時私は思ったのでした。 タイは例年世界を巡って法を説いていらっしゃいます が、この春にもタイ・韓国・香港を巡るアジアツアーが 行われています。その内容は、教育者向けや僧侶向けの リトリート、ファミリー向けのリトリート、ヘルスケア・ プロフェッショナル向けのリトリートなどであり、対象に ヴァリエーションを持たせながら、講演会ではなくあく までもリトリートを中心としたツアーを行っています。こ れにはプラムヴィレッジのブラザー&シスターが大勢同 行しているのですが、これはつまり、理屈を知ってもら うだけでは足りない、実際にブラザー&シスターと共に 行う「マインドフルネスの実践 | に参加してもらうことが 重要ということです。サンガに人を呼んで、実践を通し て学び、それを実生活に応用してもらう。この教育的な 在り方、これが現在タイが行っている「アプライドブディ ズム | なのです。タイは言っています。「一人で修行をし てもダメです。ブッダもサンガを最初に作られました。 私もサンガなしではいられません。|

日本からボルドーの地は遠く簡単に訪れる事は出来ませんが、毎年行われているアジアツアーで近隣国のリトリートに参加したり、出来れば来年にでも再来日が実現されて、皆様が実際に今も成長し続けているタイのサンガをご体験いただくことが出来れば、「アプライドブディズム」の意味をより深く理解することが出来る事かと思います。



豆腐も手作り。美味しそう



列を作ってバイキング



生活空間のあちこちに呪偈が掲示されています。

国内インフォメーション

平成25年度「禅をきく会」~禅の真髄にせまる~

第131回

日 時/ 平成25年6月6日(木) 午後2時30分~

会 場/ 仙台市 楽楽楽ホール (太白区長町文化センター2階)

参加費/ 1,000円

主 催/ 曹洞宗東北管区教化センター

Tel: 022-218-1381 Fax: 022-218-1382 (平日午前10時~午後5時)

演 題/「現代における坐禅の意義

~欧米での坐禅指導から見えてきたもの|

曹洞宗国際センター所長 藤田一照老師

※講演の後、坐禅指導があり、椅子坐禅の体験も出来ます。



◆ 藤田一照老師 プロフィール

1954年愛媛県生まれ。東京大 学大学院教育学研究科教育心 理学専攻博士課程を中途退学 し、紫竹林安泰寺にて曹洞宗僧 侶となる。1987年よりアメリ カ合衆国マサチューセッツ州西 部にあるヴァレー禅堂に住持と して渡米、近隣の大学や仏教瞑 想センターでも禅の講義や坐禅 指導を行う。2005年に帰国。

2010年よりサンフランシスコの曹洞宗国際センター所長。著 者に『現代坐禅講義』。共著に『あたらしいわたし』、『脳科学は 宗教を解明できるか?』、『仏教は世界を救うか?』。訳書にティ ク・ナット・ハン『禅への鍵』、『法華経の省察』、ドン・キューピッ ト『未来の宗教』、スティーブン・バチェラー『ダルマの実践』、 デイビッド・ブレイジャー『フィーリング・ブッダ』、キャロ ライン・ブレイジャー『自己牢獄を超えて』がある。

SZI express



「塔婆供養で植林支援」のご報告

去る12月22日午後3時30分より、市ヶ谷の法政 大学大学院の宮木いっぺい研究室において、「塔婆供 養で植林支援」の寄託式が行われました。これにより、 亀野事務局長よりGNCに50万円が寄託されたことを ご報告いたします。

動 静 2012年12月1日~2013年3月31日

12月下旬 会報51号発送作業

12月22日 「塔婆供養で植林支援」GNCへ寄託 (市ヶ谷 法政大学院)

2月 8日 役員会 (檀信徒会館)

2月20日 会計監査 (檀信徒会館)

2月28日 総会·懇親会 (熱海ニューさがみや)

3月18日 役員会・『曹洞宗海外日系寺院史』編纂委員会

(ルノアール銀座店)

※インターネットにより随時連絡会議を行っております。



今号ではプラムヴィレッジのレポートを紹介させて いただきました。

現在アジアツアーが続けられており、5月には韓国・ 香港でのリトリートが開催されるそうです。

お問い合わせは、japan@plumvillage.orgまで。 日本語で大丈夫です。 (慧真九拝)





会費納入者・賛助金納入者名簿(2012年12月20日~2013年3月20日まで)は、都合により次号にて掲載させていただきます。



「SOTO禅インターナショナル20周年記念式典」のご案内

日 時/6月18日(火) 午後1時30分より (午後1時 受付開始)

会 場/ 檀信徒会館 桜の間

- ◆「SOTO 禅インターナショナル 20 年の歩みとこれから」オープントークパネラー / 秋葉玄吾師、山本健善師、吉田宏得師、大場満洋師 他コーディネーター / 福島伸悦師
- ◆午後3時30分より 「臨時総会」

議 案:1. [2014年度以降のSOTO 禅インターナショナルの方向性について]

- 2. 「人事の件」
- 3. 「会則の件」
- ◆ 午後4時30分より

「SZI20周年・『曹洞宗海外日系寺院史』出版記念祝賀会」

※同封のハガキにて、出欠の連絡をお願いいたします。

CONTENTS ▶巻 頭 海外布教への放言 国際布教の基本は那辺に求められるべきであろうか 宗議会議員 山本 健善 1 ▶特 集 2013年度総会報告 2 窓OTO 禅インターナショナル 2013年度総会報告 2 総会資料「2012年度 決算報告」 3 「2013年度 予算報告」 4 「2012年度 事業報告・2013年度 事業計画」 5 ▶海外レボート ①「ヨーロッパの現状と総監部の役割」 ヨーロッパ国際布教総監部 6 ②「エンゲージドブディズムからアプライドブディズムへ ~プラムヴィレッジ滞在報告~」 S Z I 事務局 佐藤 慧真 7 ▶国内インフォメーション 平成 25年度「禅をきく会」 ~ 禅の真髄にせまる ~ 11 ▶ SZI express 「塔婆供養で植林支援」のご報告/動静報告/編集後記 11 ▶ 「SOTO 禅インターナショナル 20 周年記念式典」のご案内 12